

沖縄観光をめぐる課題

問題一 沖縄観光は、このわずか20年間、ものすごく躍進したのである。現在、沖縄観光は「量」から「質」に転換すべきだといわれながら、数年前の目標1000万人が、今では、1200万人目標に飛躍的となり、相変わらず「量」を追い求めている。

問題二 観光関連産業の発展で失業率が改善する一方、サービス業全体として非正規雇用が多く、ホテルなど観光関連事業で働く従業員の満足度が低い。また、道路はレンタカーの増加で渋滞は激しさを増している。これ以上の観光客増加は「沖縄らしさ」「沖縄の価値と本質」「沖縄の精神性」など、これらの喪失につながるという不安もある。沖縄観光が急激な伸びを見せる今、地域の豊かさや県民の幸せにつながる観光のあり方について考えるべきではないのか？

沖縄の観光業界にとって、去る一年は、激動な一年だった。前半では、また沖縄県の入域観光客数は将来的に900万人を（2017年末時点、すでに1200万人定め）突破することが目標であるし、後半になると、入域観光客数を一気に1200万人（国内客：800万人、外国人客：400万人）を目標に掲げている。その内、国内客は約800万人で、約400万人が外国人客を対象とする。しかし、そもそも沖縄県の人口は約140万人である。つまり、沖縄県の人口の6倍以上の人々が将来的に訪れることになる。このことは、沖縄県の観光分野においていくつかの問題が提起される。一見するとかなり観光業が上手くいっているように感じる目標ではあるが、

①問題点

1.交通の問題

外国人観光客が観光に来たとき、レンタカーに乗ることも多い。しかしレンタカーが増えると渋滞という問題が懸念される。また外国人が何らかの方法でレンタカーを借りて事故を起こすという、運転トラブルも急増している。このレンタカー問題は、沖縄は車社会のためそれ以外の交通が不便であること、交通運転手の語学力が不足していることが原因だと考えられる。

2.那覇空港の問題

現在那覇空港は第二滑走路の建築が行われている。2020年の東京オリンピックが決まってから増築が決まった。併用されるのは2020年の3月となっており、辛うじて東京オリンピックに間に合う建設となる。また同じく、国内線旅客ターミナルビルと国際線旅客ターミナルビルをつなぐターミナルの建設も行われている。この増築に増築を重ねた運営は、未来を見据えた経営ではない

3.飲食の問題

観光客は遅くまで食事やお酒を楽しみたいと思うが殆どのお店が閉まってしまう。そのため遅くまで入れる場所というのが限られてしまうため、行きにくいという問題がある。宗教上の食事の問題もある。イスラム教やヒンドゥー教など食のタブーがあるため、食べられるものが限られてくる人々がいる。しかし日本にはそのようなタブーが無いいため、外食を

することが難しくなる問題がある。

4.ホテルの問題

観光客が増加すると、宿泊施設が不足する問題がある。また古くなったホテルは建て替えも行わなければいけないため、その時に受け入れられるホテルがなければ観光客を呼ぶことも出来なくなってしまう。

また、東京オリンピックの外国人観光客増加を見越して、人材の育成をしていく必要がある。

5、「質」より「量」の問題。

トータルに沖縄観光を考えるためには、「数（量）よりも質」を重視することが必要である。ではその「質」とは一体どういうことだろうか。質について考えるためにはホストとゲストの両方の視点から考えることが求められる。例えば、観光客の要望や意見を参考にするだけでなく、県側や自治体・企業・県民の意見を参考にするなど、双方向の視点から沖縄観光を見つめ直さなければならない。また、ホスト側としては、誰かに指摘されて見直すような受動的な態度ではなく、主導的に提案していく姿勢を大切にすることが重要である。ある意味ではそれも一種の質の向上と言えるかもしれない。

②改善案

1.交通の改善案

上で述べた問題点の改善案について考えていく。今導入を検討されている鉄道について考えていきたい。那覇から名護をつなぐように鉄道を敷く案がある。車など道路を走る以外の交通手段だと、モノレールがあるが空港から首里城となっており広範囲を移動することができない。もし、この鉄道が導入されれば移動範囲が広がる上、時間も短縮することができるので、観光客の移動の患いが一気に軽減されるだろう。

2.那覇空港の改善案

今までのように建設を行ってはい時代間に合わなくなってしまう。那覇空港は沖縄の大きな窓口であるため、しっかりとした基盤を持つ空港でなければならない。一度今の空港の現状を把握し、建設しなおす必要がある。

3.飲食の改善案

早く閉まるお店が多いという事から、夜市など夜でも行ける飲食店を作ることが一番の解決策だと考えられる。また夜市ならそのようなお店が密集しているため、いろんなお店に寄れるという利点がある。

宗教上の食のタブーについては、牛肉や豚肉などタブーになる食材を一切使わないお店や料理を作ることによって解決される。

4.ホテルの改善案

ホテルの建設はもちろんだが、外国人観光客に向けての人材育成も必要である。また最近ビジネスホテルなど簡易的なホテルが多いが、安さで顧客を呼び込むのではなく、宿泊したいと感じてもらえるホテルを建設しなければならない。

③課題

1.ホストとゲスト

沖縄はホストとしてまだ観光業は完全な状態ではない。そのため今の状況ではゲストを呼ぶことが出来ない。問題点でもあったように、交通やホテル、航空などの現状が観光の発展の妨げになっていると考えられる。

2.量と質

今まで沖縄の観光業は人数など量を求めてきた。しかし、このままではごみや資源、環境などの問題が出てくる。今後の未来を見据え、長く運営できる観光業に切り替えて行かなければいけない。例えば、お土産や料理など安くて量産的なものではなく、高級志向で沖縄だけのブランド性を追求した品物を展開していくべきだ。

3.保全と開発

自然は大切な観光資源の一つである。しかし、観光客を呼び込むうえで、開発も行わなければいけない。そのために県は開発するうえで、自然についても話し合っていく必要がある。自然は戻すことの出来ない資源のため、観光開発と自然両方のバランスを上手くとる必要がある。

③課題

1.ホストとゲスト

沖縄はホストとしてまだ観光業は完全な状態ではない。そのため今の状況ではゲストを呼ぶことが出来ない。問題点でもあったように、交通やホテル、航空などの現状が観光の発展の妨げになっていると考えられる。

2.量と質

今まで沖縄の観光業は人数など量を求めてきた。しかし、このままではごみや資源、環境などの問題が出てくる。今後の未来を見据え、長く運営できる観光業に切り替えて行かなければいけない。例えば、お土産や料理など安くて量産的なものではなく、高級志向で沖縄だけのブランド性を追求した品物を展開していくべきだ。

3.保全と開発

自然は大切な観光資源の一つである。しかし、観光客を呼び込むうえで、開発も行わなければいけない。そのために県は開発するうえで、自然についても話し合っていく必要がある。自然は戻すことの出来ない資源のため、観光開発と自然両方のバランスを上手くとる必要がある。

4.客源地の拡大

その間、中国内地の雲南省へ参った。西北各省区（甘肅省、新疆ウイグル自治区など）と同じように、現地の人々にとって、日本への旅行は、また遙かに遠い話ようだった。筆者の友人の何人ぐらい、日本や沖縄に旅行したいけど、数年前に一応現地旅行社を通して申請したが、失敗した経験があったので、二度と申請する勇気がなかったらしい。そういう意味で、

このような方々は、沖縄にとって潜在的な源だと筆者は思う。

持続可能な沖縄観光

行政のみで沖縄観光を進めるのは不可能に近い。現在的那覇空港は国際線ターミナルが作られたのち、新たなる増築、また数年で新しい国際ターミナルの話も出ており、重複建築となっている。

現在、那覇と名護をつなぐ鉄道の話が出ているが、那覇空港のように重複建築にならないよう、建設計画についてちゃんと考え直さなければいけない。

このような問題から、沖縄の戦略的乏しさがうかがえる。今のような観光業を作り出している考え方を低次元と言ひ、その考え方が沖縄の問題点である。沖縄は低次元から、高次元社会へと行かなければならない。さまざまな可能性を見据えて、いろいろなことを創造する力が高次元社会へと繋がっていく。

たとえば、国際通りの商品などから沖縄の付加価値が低いことが分かる。付加価値の高いものが生み出すことでいいゲストを呼ぶことが出来る。付加価値の高い商品、場所を提供することが観光産業の発展につながる。

そのためにも今の沖縄はホスト側の革命、革新が必要だと考えられる。例えばハワイなどはよく「楽園」だと言われるが沖縄は「楽園」だろうか。ホテルや土産物、サービスなど何をとっても比べ物にならない。

また、観光産業が発展しなければ沖縄は自立することも難しい。自立できないと、将来何かあったとき大きな影響を受けてしまう。今の沖縄の経済では自立しているとは言えない。そういった面からも、観光産業は大きく発展していかなければならないし、そのためにも今の観光業のやり方を変える必要がある。

沖縄の戦争のことについて、私たちは超えていかなければならない。忘れるのではなく、次の段階へと進む。それが高次元へつながり発展する。